

II、中卒者筋ジストロフィー症者の 作業療法の研究

国立療養所兵庫中央病院

佐野 隋 鳳

昭和47年度より、中卒者を対象とした「たけのこ学級」が開設され、いくつかの講座が開始された。その中の1つであるアートフラワー、手芸の講座を基盤として、昭和49年より作業グループが自主的に編成され、入院生活の一部として社会的職業ともいえる作業療法が実施されるようになったので、これを指導して来た成果を報告する。

本年度作業グループに参加しているのは中卒者31名中16名（男子14名、女子2名）で、男女各1名は歩行可能者、6名は手動車椅子、8名は電動車椅子使用者である。すなわち手先しか動かせない者が8名、他は幾分力を要する作業も可能という状態である。

彼等は自主的に、作業班長、注文係、会計係を決め、16名が4名ずつのグループに分かれ、それぞれの作品を作製している。作業を始めて2年位は、症状に応じ、力の強さや器用さなどにより分業的な流れ作業で1つの作品を作っていたが、現在は各人がいくつかの工程を受け持ち、グループ毎に異なった作品を仕上げていくようになった。

作業時間は月曜日より土曜日までの午前10時から11時半まで、午後は木曜、土日曜以外の2時半から4時半まで作業室で行ない、その他の余暇にも各病室で適宜行なっている。作品が注文される範囲は、院内職員、看護学院生、養護学校職員、父兄、ボランティアなどである。

地域社会との交流をはかるため、看護学院祭、県身障者作品展での展示即売会、市文化祭など種々の機会をとらえて出品している。講座において漸次高度な作品が手がけられる一方、商品として求められる需要者側の要望を考え、単に作品を作れば売れるという安易な考えから、どの様なものをどう作れば喜んで買ってもらえるかということが分かって来たようで、それらのことを反省しながら作品にとりくんでいる。

彼等が作業にたずさわようになってからの病棟生活をみる時、作業のみならず、作業以外の面でも協調性が出て来ている様である。例えば、隣病棟から後輩を受け入れた場合においても、早く転棟者が病棟に慣れる様に気を配り、転棟者自身も喜々として彼等をしたっている様子がうかがえる。また各種行事にも積極性をみせ、従来はともすれば自己中心的傾向があったが、他人の立場を考えて行動する面が多くなり、病棟生活におけるまとめ役的な人物構成ができてきた。このように、作業療法による精神的側面の成果として、日常生活に活気と潤いと充実感がみられ余暇時間が計画的に利用され、作業をする楽しみを生活の主部分としているようである。運動機能面での成果は明らかにしたいが、ADLの高度障害者でも十分な作業をこなしていることは

驚くべきことである。

また、将来的にはアートフラワーのみに止まらず、手芸作品や七宝焼の作業にも関心を示し、作業の幅を広げつつある。彼等の作業が単に講座の延長として行なわれるのではなく、創造性ももった作品が彼等の手によって作られるようになるよう指導していきたいと考えている。

12、Duchenne 型 PMD 患者の tracing 作業負荷による心拍数変化

国立療養所鈴鹿病院

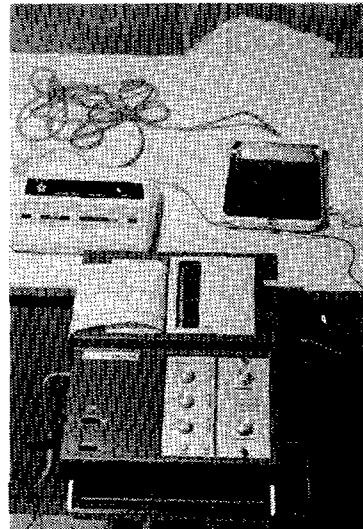
宮崎 光 弘 片山 幾 代
野尻 久 雄 河野 慶 三

Duchenne 型 PMD 患者の行動特性については種々の方法を用いて検討をすすめてきた。今回は人為的に設定された緊張場面における PMD 患者の身体反応を指標としてその特性を検討した。

〔対象と方法〕

対象は当院に入院中の Duchenne 型 PMD 男子 25 例（9 - 21 歳）である。

図 1 に示した鏡映描写装置の星型図形板を使用し星型図形板を trace させ、描写経過および心拍数を心電計を用いて同時記録した。試行前の心拍数を 1 分間記録し、その後「この星の図形をペンでなぞってください。ペンは溝からはみださないように、浮かさないようにして、できるだけ早く、多く回ってください。“ハイ”の合図から“ヤメ”の合図までです」と指示した。作業の 1 試行時間は 1 分間とし、1 分間の休憩をはさんで 10 回くり返した。



(図 1)

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

昭和 47 年度より、中卒者を対象とした「たけのこ学級」が開設され、いくつかの講座が開始された。その中の 1 つであるアートフラワー、手芸の講座を基盤として、昭和 49 年より作業グループが自主的に編成され、入院生活の一部として社会的職業ともいえる作業療法が実施されるようになったので、これを指導して来た成果を報告する。